

令和6年開校 有利中学校の制服が決まりました！

10月3日(土)～5日(月)、文化福祉センターにて制服・体操服の第2回展示会を開催し、当事者である小学校5年生以下(保育所・幼稚園含む)の保護者と小中学校の教職員によるアンケート投票を実施しました。

10月22日(木)の第6回「有田市立中学校統合準備委員会」にて、投票結果にもとづいて新制服・体操服が選定されました。選定された制服・体操服は、保護者の負担を考慮し、現在小学校5年生(統合時中学3年生)が中学校に入学する令和4年4月から導入されます。

新制服・体操服の素材は、「動きやすい」「消臭効果と抗菌性」「洗濯後の形状安定性」「ポロシャツ、夏の体操服は透けにくい」など、優れた特徴があります。また、女子生徒は、スカートのほかにスラックスも選択することができます。



制服(冬服) 制服(夏服) 体操服

※今後は、市内学校代表とメーカーとの間で、インシヤルのつけ方やエンブレムのデザインなど細かな部分について「仕様調整」を行います。



令和3年2月1日から
コンビニ交付始めます！

住民票と印鑑登録証明書が、お近くの コンビニ等で取得できるようになります！

交付できる証明書 住民票の写し・印鑑登録証
利用可能時間 6時30分～23時
交付場所 全国のセブンイレブン、ローソン、ファミリーマート等

※キオスク端末が設置されているコンビニ等で利用できます。

必要なもの マイナンバーカード
暗証番号(利用者証明用電子証明書・4桁)
手数料 200円(市役所窓口よりコンビニの方が100円お得です)

便利でお得！ぜひご利用ください。

詳しくは市ホームページへ！
☎ 市民課 TEL22-3561



おめでとうございます！
次の方々が受章されました

令和2年秋の叙勲

旭日双光章(地方自治功労)
辻本 意典 氏

旭日双光章(地方自治功労)
万賀 幸雄 氏

瑞宝小綬章(警察功労)
吉田 喜三郎 氏

令和2年度文化功労者表彰

日本において、文化の向上発達に関して特に功績が顕著な方に送られる表彰

本市出身 東京都在住
音楽プロデューサー 酒井 政利 氏

永年にわたり、和歌山大学経済学部非常勤講師として地域産業論について学生に講義を行うとともに、市の産業についても熱心に調査研究を行い、「紀州有田みかんの起源と発達史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「除虫菊の栽培と蚊取り線香Ⅰ・Ⅱ」等数々の調査研究書を発表してこられた。

その後、郷土の先人たちが築き上げた産業文化の学術的な調査研究を行い、本年3月には、蚊取り線香130年の歴史を紐解く研究書「除虫菊と蚊取り線香―上山英一郎翁の先見性と地域産業への貢献―」を発表された。

また、市観光協会発行のパンフレット「時さかのぼる歩き旅」、冊子「有田市の文化遺産」などの企画立ち上げ、監修にも中心になって携わってこられたほ



御前 明良 氏

文化功労賞

この賞は、本市文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に對し、その功績をたたえ市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成5年に創設され、今回で28回目の表彰となります。

11月6日(金)に表彰式を行い、次の方々が表彰されましたので、ご紹介します。

受賞者インタビュー
―郷土史の魅力は？―
調べれば調べるほど知らないことがたくさん出てきます。過去と未来のつなぎ役になれるところが魅力です。

―今後の抱負は？―
有田地方のケシ栽培の歴史や、有田を治めた中世の豪族についても調査研究を行いたいと思っています。

が、現在も周囲からみかんや蚊取り線香の歴史を子ども向けにまとめてほしいという依頼もあるなど、産業文化の啓蒙にも取り組まれている。

今年度からは、日本農業遺産への認定をめざす「有田みかん地域農業遺産推進協議会」に有識者として選任され、現地調査の立ち合いやアドバイスなどの活動も行われている。

郷土の歴史や文化を後世へと継承する氏の功績は大なるものがあり、本市の文化振興に大きく寄与されている。

※第22回(平成26年) 有田市文化奨励賞



脇中 範生 氏

文化奨励賞

美しい日本語と昔から伝わる日本の習慣を大切にすることを信条として短歌の創作活動に励み、その時々自身の仕事や体験などを題材に、自分にしか詠めない世界を歌にのせて伝えられている。

全国に100名以上の会員を持つ「林間短歌会」のリーダーとして、市内の「群鈴短歌会」や「有田短歌会」でも短歌指導をされるなど、短歌の指導では卓越した力量があり、作品や指導に対する姿勢から、大勢が師事している。

長らく文化協会報「文協」の編集委員や有田市文芸大会「短歌の部」の審査員も務められている。

「和歌山県歌人クラブ」の会長を務められたこともあるほか、6年にわたり毎日新聞「紀州歌壇」の短歌の選者も務められている。また、短歌雑誌「短歌研究」や「歌壇」等で年に数回執筆を手がけられるなど、全国的にも活動されている。

自身が建設会社の工事現場で働いていた時に感じたことを歌に詠んだ歌集「い



表彰式の様子

受賞者インタビュー
―短歌の魅力は？―
ペンと紙があれば誰でもつくれるところ、古来からの定型に自然・日常の感動を託すことが自分史につながるということです。

―今後の抱負は？―
経験や感性を大切に、自分にしか詠めない歌を詠むように、一人でも多くの方に伝えていきたいです。

のち綱」、退職を決めた自身とみかん園を重ね、新たな出発を詠んだ「改植」、みかん農家の父の教えをタイトルにした「銭の降る音」など、自身の作品も多数発表されている。

現在、歌誌「林間」の編集・発行人として、日本語を大切にしながら後進の育成にも力をいれており、市の文化の発展に大きく寄与されている。

※日本歌人クラブ会員・同近畿ブロック委員

日頃の修練、技、実績をたたえる

有田市文化賞

